

委員質問・意見等

7月6日受付分

➤ 東京電力に対する質問・意見

私のところへ2人の柏崎市民から東京電力様へ別紙のような質問や要望をしてほしいという声が寄せられました。私も時宜に適った質問や要望であると共感し賛同いたしましたので、ぜひ文書でご回答いただきたいと思います。

別紙1参照

➤ 県技術委員会 地震、地質・地盤小委員会 委員長 山崎晴雄様に対する質問

質問内容は別紙に記載しました。

別紙2参照

東電の原子力発電所において全電源喪失時の対策についての質問

1. 平常運転のとき原子力発電機一基当たり一次冷却水のポンプの必要電力、二次冷却水のポンプの必要電力、燃料棒の冷却に必要な電力、制御に必要な電力はどれくらい。
2. 現在、電源喪失時に用意された、冷却に必要な一基当たりの電源車の電力は合計何KWですか。足りない時はどのような手立てをするのですか。
3. 電源車の燃料補給はどのような手順で行いますか
4. 使用済み燃料プールの安全対策はどのような対策を施しますか。
5. 全電源喪失時どのような手順で対応するのですか。

6. 外部からの電源を地下から（鉄塔を通さないで）取り込む方法などは検討されていますか。
地震に強い安全な場所、地域から

1. 柏崎刈羽原発の地震・津波・放射能事故防止対策

福島第一の事故を事例として、事故後の現時点で考えられる**最良の対策**を時系列的に表にし、柏崎刈羽原発での現在の安全対策 との対比で 解析・説明 を望む。

- (1) 事故発生時の際、各処置に対する、指示・命令を出す権限が 現地所長にあるのか、東電本社・政府・その他の組織にあるのかも記す。

☆重大な原発事故が発生したとき、一番頼りになるのは、現場を指揮する現地所長であるので、この現地所長の権限をしっかりと確認しておく必要があるとおもいます。

- (2) 電源車の増車・冷却水・等の対策強化は、良いことと評価するが、総て電気による制御操作によるもので、電源・通電回路・最終作動機器（弁・ポンプ等）のどれかが機能しなければ、第一福島と同様に、緊急の措置が取れなくなる。現に第一福島のベントが開かなかったのも 使用済み核燃料プールに水を供給できなかったのも、電気に頼った安全対策のみ の弱点であったと思われる。ベントの弁は外部からの窒素等の気体圧力で開ける弁を別に用意する 等 **電気に依らない 人だけで行える最後に頼れる単純な設備を併設すべきではないか。冷却手段の確保が最重要事項であるので。**

2. 地域の皆様への説明会

5月31日に市民プラザで行われた説明会で、時間不足のために、質問にたいする回答がなされず「東電のホームページを後で見てください・・・」との東電側の発言がありました。6月12日発行の「News」アトム に「当日いただいた主なご質問と回答」 が3項目だけ記載されていますが、今後も 未回答の質問事項にたいしての回答記載を求めたい。

別紙2

新潟県技術委員会 地震、地質、地盤小委員会
委員長 山崎晴雄様へのご質問

福島第一原発の過酷事故は、巨大地震が集中する環太平洋地震帯の上に乗っている地震列島日本での原発運転の危険性が著しく過小評価されていたことを示していると思います。

私は3年前の平成20年9月3日の新潟県技術委員会の2つの小委員会委員長と「地域の会」の意見交換会で、地震列島日本の中でもさらに地震、地質・地盤に関する下記の5大悪条件が重なる柏崎刈羽地域で、地震などで損傷した原発の運転を再開して安全を確保できるのかという質問をいたしました。

1. フォッサマグナ地帯にある。
2. 軟弱なグリーンタフ地域にある。
3. 軟弱な堆積層が最も厚い地域にある。
4. 地層の褶曲運動が最も激しい活褶曲地域にある。
5. 日本海東縁ひずみ集中帯と新潟-神戸ひずみ集中帯の両方に含まれる。

この質問に対して貴委員長から簡単なお説明をいただきましたが時間の制約もあり、納得できるところまではいきませんでした。

その後、今年3月以降の福島原発震災の悲惨な状況を見まして、上記のような悪条件が重なる柏崎刈羽原発の危険性も同じように著しく過小評価されているのではないかと、いう私の心配は一層強まりました。

そこで前回の質問に対する納得のいくご説明をぜひお願いしたいと思います。「地域の会」等でご説明いただく機会が持てればいいのですが、もし無理のようでしたら文書でのご回答をよろしくお願いたします。